

2008 年青山学院大学同窓祭

## 国際マネジメント研究科同窓会 公開講座およびシンポジウム 活動報告

去る 9 月 23 日（火）に秋分の日恒例となった“青山学院大学同窓祭（青山グリーンフェスティバル）”が開催され、我々、ABS ALUMNI（青山ビジネススクール同窓会）も昨年に引き続き、国際マネジメント研究科（青山ビジネススクール：ABS）から全面的支援をいただき、公開講座及び卒業生によるシンポジウムと同窓会紹介ブースの設置を企画・運営いたしました。

公開講座では、昨年より国際マネジメント研究科にて教鞭を執られていらっしゃる前田教授に「日本産業再飛躍への“戦略的発想”」と題した力強い講演をしていただきました。続くシンポジウムでは、2007 年卒業東園さんと 2008 年卒業山口さんがご自身の経験に基づいてビジネス事例を紹介して講演してくださいました。どのセッションも真剣ながらも楽しい雰囲気で行われ、セッション終了時には活発に質疑応答がおこなわれました。シンポジウム終了後には表参道近くのお店で懇親会が開催され、在校生・卒業生・教授といった立場、更に卒業年度の違いを越えて和気藹々と盛り上がりました。参加者の皆さんには充実した一日だったのではないかと思います。



（卒業生によるシンポジウム後に教室にて）

公開講座 （聴講者数：31人）

講師： 青山ビジネススクール教授 前田 昇

講義タイトル： 「日本産業再飛躍への“戦略的発想”」

講義レポート：

80年代までは日本には「追いつけ、追い越せ」の成長の方向性があったが、現在は国として方向性が不明確であり、高い技術力があっても、革新的なビジネスモデルを取り入れた世界のベンチャーに追い抜かれている状況にあることを、太陽電池を例に分かりやすく説明されました。ご自身のソニーでのフェリカ事業の経験を引き合いに、今後の日本の産業に必要なのは、大企業とベンチャー企業のWin-Win関係を築く“コーポレート・ベンチャリング”がひとつの糸口ではないかと提起。大企業からスピンアウトした日本のベンチャー企業の具体例を交え、日本産業再飛躍へのひとつの道筋として各人の戦略的発想に基づくキャリアデザインではないかと、聴講者に熱く語られました。

卒業生によるシンポジウム （聴講者数：41人）

講師： (株)ジャパンカンターリサーチ セールスプランニングマネジャー  
東園 岳子（07年卒）

講義タイトル： 「チャンネル政策と資本の論理 ～自動車の例～」

講義レポート：

自動車メーカー主導の日本市場における販売チャンネル再編について、事例を交えて講演されました。具体的には、ご自身がかつて勤務されていた自動車メーカーの販売チャンネル再編について時系列で整理し、その背景にある環境変化や流通構造などを取り上げ、複雑なグループ子会社再編の話と絡めてお話されました。

講師： 三菱重工業(株) 社長室 広報・IR部 ブランド戦略グループ  
山口 祐造（08年卒）

講義タイトル： 「情報飽和時代のコミュニケーション  
- 企業におけるインターナル・ブランディングの重要性 - 」

講義レポート：

インターナル・ブランディングの考え方や取組みについて、日本企業と外資系企業を取り上げて講演されました。現在勤務する三菱重工業と前職のGEの両方でインターナルブランディングに取り組んできたご自身の経験を基に、両社の社風や情報の受け手である社員の考え方の違いによる取組み方の違いについて、具体的な経験を交えてお話されました。

懇親会（参加者数：45人）

卒業生によるシンポジウム修了後に、表参道近くのお店で懇親会が設けられました。校友や教授との久々の再会に昔話に花を咲せるテーブル、卒業年度を越えて各業界・仕事の話で盛り上りをみせるテーブル、先生のお話に耳を傾けるテーブルなどなど、皆さんすっかり学生にもどって盛り上がりを見せていました。同窓祭での懇親会は今回初めての試みでしたが、あらためてABS卒業生の繋がりのすばらしさを実感した一時であり、楽しい時間を過ごすことができました。

以上